

デザイナーのための経済コラム(27)

冗長性または無駄の効用

(数表・1)

1	0	1	1	0	1	0	1	1
1	0	0	0	1	1	1	1	1
1	1	0	0	0	1	0	1	1
1	0	0	0	0	0	1	0	0
0	1	1	1	1	1	1	0	0
1	0	0	1	0	1	0	1	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
1	1	0	1	0	1	1	0	1
1	0	0	1	1	1	0	0	0

「クイズ・1」
81個のデジタル数字が送られてきました。この中で1つだけ送られてくる途中に間違っている数字があることを発見しました。どうして特定できるのでしょうか。

「ヒント・1」送る側・受ける側にある約束があります。
「ヒント・2」数表・2、「クイズ・2」

(数表・2)

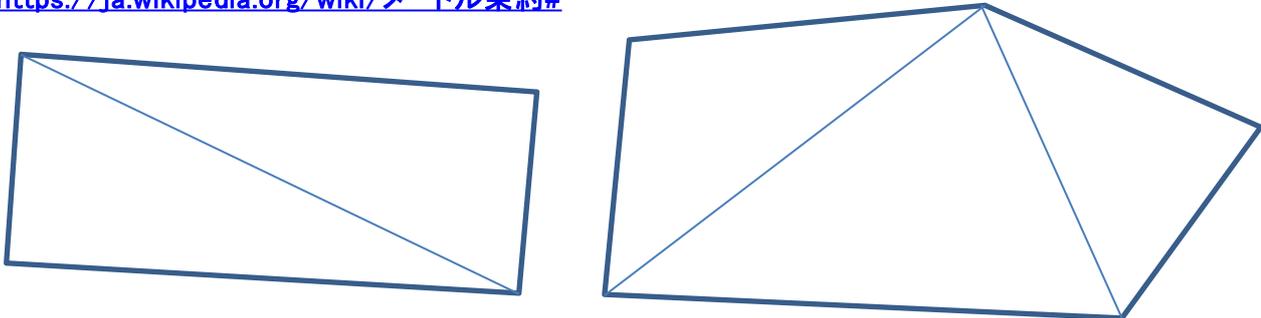
1943	119	111	998	236	1175	1445	2000	8027
1988	110	122	665	446	2480	1192	2011	9014
2000	771	233	202	542	3515	1390	2020	10673
1600	550	334	456	397	3618	2022	2030	11007
2011	123	445	279	198	4416	2023	2925	12421
2050	234	667	218	255	8216	2024	2025	15689
1918	678	887	368	666	7312	2025	2019	15873
1935	321	991	248	653	5603	2030	2923	14704
15445	2906	3790	3434	3394	36335	14151	17953	97408

「クイズ・2」
81個のアナログ数字が送られてきました。この中で1つだけ送られてくる途中に間違っている数字があることを発見しました。どの数字でしょうか。

「ヒント」縦数列の合計、横数列の合計が合っていない個所が間違いになります。

このような間違いは、デジタル通信では雑音として検知され、補正するようにされると聞いています。数表・2は日常的生活の場面では、経理や在庫管理では普通に使われる考え方です。縦数列、横数列の合計で間違っている個所がわかります。物理や化学の等式が確認、検証できなければ、先に進めません。(クイズ1の答えは、縦横の合計が奇数が偶数で揃っているかで判定します。)

不動産、建築の分野では、面積が正確に表示されなければ、加工施行も取引も成立しません。一見正方形や長方形に見える形も、三角形に分割して、三辺の寸法を特定することで形が特定出来ます。建具職人、畳職人にとっては基礎的な知識、技術です。ものさし、計りは度量法で定義され、認証を受けた計量器で取引することが定められています。建築分野ではm法が適用されていますが、実態は昔の尺貫法の感覚が生きています。永六輔は尺貫法は文化だとして、尺ものさしを強いて購入し、使用を広めていた話があります。m原器、g原器、時間の定義も大きく変わって、より精細なものになっています。国際条約でm法が広く使われていますが、まだインチが使われている国もあります。
<https://ja.wikipedia.org/wiki/メートル条約#>



形のあるものは寸法や材質などの要素(定義)を特定することで話が出来、相談も出来、契約もできますが、形のないもの、定義ができていないと、どこかでずれが出てきます。言葉の意味も時代とともに変化しています。人と話をするとき、いちいち言葉を定義しては面倒くさがられます。意見の違いは感情的な対立になる恐れもあります。そんな兆しを感じられた時は、相手の言葉の定義が、自分の思っている定義とのズレだと考え、相手の思っている定義を推し量ることが大切だと思います。しかし、定義の違いは解消することはありません。人は自分に都合の良いように定義するからです。

現在のロシア・ウクライナ戦争では、「正義」、「民族」、「領土」、「歴史」、「英雄」、「ジェノサイド」、「国防」、「侵略」、「連帯」、「経済制裁」などなど定義に大きな違いがあるのが現実だと思います。「物言えば 唇寒し 秋の風 (松尾芭蕉)」

(T.K.)